

# 読 響

Yomiuri  
Nippon  
Symphony  
Orchestra

世界を救えるものがひとつある。天使アスラエルと交した秘密の約束。

モーツァルト: 歌劇「皇帝ティートの慈悲」序曲  
MOZART: "La clemenza di Tito" Overture

リゲティ: 無伴奏チェロ・ソナタ  
LIGETI: Sonata for Solo Cello

リゲティ: チェロ協奏曲  
LIGETI: Cello Concerto

スーク: アスラエル交響曲 ハ短調 作品27  
SUK: Asrael Symphony in C minor, op. 27

スークが、亡き師ドヴォルザークに捧げた交響曲。  
作曲中に妻でドヴォルザークの娘  
オティリエも夭逝してしまう。  
深い悲しみの中で、二人を偲んで書いた交響曲には、  
死を司る天使「アスラエル」の名が付けられた。

## ASRAEL SYMPHONY

ベルリン・フィルなどを振り、躍進するチェコの俊英  
トマーシュ・ネトピル (指揮)  
TOMÁŠ NETOPIIL, Conductor

作曲家リゲティから直接指導を受けた十八番を披露  
ジャン＝ギャン・ケラス (チェロ)  
JEAN-GUIHEN QUEYRAS, Cello

読売日本交響楽団 第593回 定期演奏会


2019 **11.29** (金) 19:00 **サントリーホール**  
Subscription Concert, No. 593 / Fri. 29th Nov. 2019 19:00 / Suntory Hall

9月30日まで S¥7,500 A¥6,500 B¥5,500 C¥4,000

10月1日以降 S¥7,600 A¥6,600 B¥5,600 C¥4,100

※2019年10月1日以降、消費税率が変更された場合、料金が変わります。

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時-18時・年中無休)  
<https://yomikyo.or.jp/>

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団  
助成:  文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)  
独立行政法人日本芸術文化振興会  
協力: アブラック

## 俊英ネットピルが振るスーク〈アスラエル〉。亡き師と妻へ捧げた“慟哭のレクイエム”



©Marco Borggreve

ジャン=ギアン・ケラス (チェロ)  
JEAN-GUIHEN QUEYRAS, Cello

現代作品も数多く手掛け、幅広いレパートリーで意欲的な活動を続ける世界的チェリスト。1967年モントリオール生まれ。ウィーン・ムジックフェライン、ウイグモアホール、カーネギーホールなど欧米各地でリサイタルを開催している。また、パリ管、スイス・ロマン管、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管などの一流楽団と共演。2002年からアルカント・カルテットのメンバーとして活躍するなど、室内楽奏者としても活動を展開している。協奏曲や室内楽、ソロで数多くのCDをリリースし、高い評価を得ている。楽器は1696年ジョフレド・カップパ製(メセナ・ミュージカル・ソシエテ・ジェネラルより貸与)。現在、フライブルク音楽大学教授。読響とは2016年にデュティユーのチェロ協奏曲を弾き、絶賛された。

注目を浴びる俊英ネットピルが読響に初登場する。フルシャと並び、いま欧州で最も活躍しているチェコ人指揮者。知性を感じさせる構成力を持ち、かつダイナミックな音楽を表現できる稀有な存在だ。特にオペラでの活躍は目覚ましく、ドイツの名門エッセン歌劇場の音楽総監督を務め、ウィーン国立歌劇場やドレスデン国立歌劇場などに客演している。ウィーンでは、来年2月にベートーヴェン「フィデリオ」(新演出)の指揮に指名されたことから、彼への期待の大きさがうかがわれる。

今回は、チェコの作曲家スークの傑作、アスラエル交響曲を取り上げる。スークは、プラハ音楽院でドヴォルザークに学び、後に彼の娘オティリエと結婚した。この作品は、1904年ドヴォルザークの死にショックを受け、亡き師に捧げようとして書き始めた交響曲だった。しかし作曲途中の05年、病気を患っていた妻オティリエも28歳の若さで亡くなり、さらに大きな悲しみに襲われる。そして06年、この交響曲を二人に捧げる作品として書き上げ、死を告知する天使「アスラエル」の名を付けた。全5楽章からなる約1時間の大作で、深い絶望を表すように死の影が覆い、スークの慟哭が響きわたる。ドヴォルザーク「レクイエム」の旋律が引用され、救済を求めるかのような音楽も印象的だ。最後は天国から一筋の光が差し、救いの手がのべられ、静かに閉じられる。ネットピルは同曲の録音でも高い評価を得ており、作品の神髄に深く迫るだろう。

前半には、フランスの世界的チェリストのケラスが、20世紀ハンガリーを代表する作曲家リゲティの二作品を弾く。協奏曲は、ケラスの名を世界に広めた作品だ。95年にリリースされたCD『ブーレーズ指揮/リゲティ協奏曲集』で、ブーレーズに指名されて独奏を務めた。リゲティの自宅で直接レッスンを受け、録音に臨んだ「思い出深い作品」だという。この録音は、リゲティの特有の世界をブーレーズとケラスが繊細に表したと、センセーショナルな話題を呼んだ。また、協奏曲の前に無伴奏ソナタを演奏するのは、ケラスのアイデア。「前から、この二つの作品を続けて演奏したいと思っていた。でも、実現したのは今回が初」と意欲を語る。名手ケラスの繊細な表現に耳を傾け、リゲティの創作意欲に満ちた二作品をご堪能いただきたい。

トマーシュ・ネットピル (指揮)  
TOMÁŠ NETOPIĽ, Conductor

シンフォニーとオペラの両方で国際的に活躍するチェコの俊英。2002年の第1回シヨルティ国際指揮コンクールで優勝。プラハ国民劇場の音楽監督などを歴任し、現在ドイツの名門エッセン歌劇場とエッセン・フィルの音楽総監督、チェコ・フィルの首席客演指揮者を務めている。これまでに、ベルリン・フィル、バイエルン放送響、ウィーン響、ドレスデン国立歌劇場管、パリ管、ロンドン・フィルなどに客演。オペラではウィーン国立歌劇場、ドレスデン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイエルン国立歌劇場、パリ国立オペラなどで活躍している。ヤナーチェク、マルティヌー作品などを得意とするほか、モーツァルト、ワーグナー、R.シュトラウス作品などでも高い評価を得ている。今回、読響に初登場。



©Marco Borggreve

読売日本交響楽団 第593回 定期演奏会

2019年

11月29日(金)19時開演

サントリーホール 東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

2019年9月30日まで...S ¥7,500 / A ¥6,500 / B ¥5,500 / C ¥4,000  
2019年10月1日以降...S ¥7,600 / A ¥6,600 / B ¥5,600 / C ¥4,100

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。■2019年10月1日以降、消費税率が変更された場合、料金が変わります。

読響チケットセンター 0570-00-4390

\*10時-18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

\*座席選択可/チケット郵送料無料

プレイガイド チケットぴあ 0570-02-9999

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017